

## **第 4 回伊勢市上下水道事業審議会 議事録要旨**

**平成 30 年 11 月 27 日**

## 第4回伊勢市上下水道事業審議会 議事録要旨

日 時 平成30年11月27日(火) 13:30~15:25  
場 所 伊勢市二見生涯学習センター 1階 ホール

委員出席者 木本 凱夫 齋藤 平 松原智恵蔵 杉山 謙三  
高橋 克彦 岩崎 良文 奥村 幸恵 杉田 英男  
竜田 和代 田岡 光生 大西 隆 中西好一郎

委員欠席者 曾根 章江

事務局	上下水道部長	中村 高弘
	上下水道部次長	前村 俊和
	上下水道総務課長	成川 誠
	料金課長	酒井 幸久
	下水道建設課長	松田 康
	下水道施設管理課長	渡邊 実
	上水道課副参事(建設係長)	濱口 新
	上下水道総務課主幹(経理係長)	藤田 文香
	上下水道総務課経理係主事	辻村 貴文
	上下水道総務課経理係主事	辻井 哲也
	料金課主幹(上下水道料金係長)	宮本 幸夫
	料金課下水道負担金係長	松井 裕一
	上水道課主幹(水源係長)	中西 功
	上水道課給水係長	北村 功郎
	上水道課維持係長	佐々木 徹
	上水道課建設係主事	松本 拓也
	下水道建設課主幹(下水道第一係長)	川面 和彦
	下水道建設課主幹(雨水施設整備係長)	岡井 孝浩
	下水道建設課下水道第二係長	本田 慶一
	下水道施設管理課長補佐(施設維持係長)	森本 真人
	上下水道総務課庶務係長	下村 真司
	上下水道総務課庶務係	牧 祐介

議事録署名 大西 隆 委員 竜田 和代 委員

傍聴者 1名

議 題 (1) 伊勢市水道事業ビジョンについて(継続審議)  
(2) 流域関連伊勢市公共下水道事業計画(第5期)について(継続審議)

### 審議状況

○開会挨拶 上下水道部長

○司会進行 事務局

○議事進行 木本会長

#### ○第4号議案 伊勢市水道事業ビジョンについて

上水道課から、第3回審議会からの修正・追加事項について説明。  
結果 パブリックコメント前の原案とすることに決定。

#### ○第5号議案 流域関連伊勢市公共下水道事業計画(第5期)について

下水道建設課から、第5期事業計画(汚水)、(雨水)について説明。  
上下水道総務課から、財政収支計画について説明。

以下、流域関連伊勢市公共下水道事業計画(第5期)に対する質疑応答

質委員：資料2の3ページにある評価基準の考え方を教えてほしい。

答事務局：第4期は現在の地区の状況を重視したが、第5期は将来の状況予測、経済性を重視した。

質委員：資料2の4ページにある第4期事業計画と第5期事業計画の図の表記が分かりにくい。

答事務局：第4期事業まで実施するものを含めて第4期事業計画として扱うことから、図では第4期事業計画を緑色、と第5期事業計画を赤色で、それぞれ表記している。

質委員：資料 2 の 7 ページにある接続率について、平成 38 年度(2026 年度)が前年度よりも低下する理由を教えてください。

答事務局：平成 38 年度(2026 年度)は例年と比較して下水道整備が進み、下水道に接続可能な方が 2 倍程度増えることを予想しており、処理区域内人口が大きくなるため接続率が低下している。

質委員：資料 2 の 8 ページにある収益的収支の他会計補助金について、平成 30 年度に下がる理由を教えてください。

答事務局：国の繰出基準が手厚くなったことで基準内繰入金となる「他会計負担金」が増額となった分、基準外となる「他会計補助金」が減額となったものである。

質委員：資料 2 の 8 ページにある収益的収支の他会計負担金、補助金と他会計繰入金明細の金額が異なる理由を教えてください。

答事務局：下段にある「他会計繰入金明細」は、「収益的収支」及び「資本的収入」における繰入金の総額としているため金額が異なる。

質委員：資料 2 の 12 ページにある内部留保資金が厳しくなる理由と市の対応を教えてください。

答事務局：計画最終年度に資金が底を付かないように繰入金額を算定しているため、内部留保資金が厳しくなる。料金体系の見直しについても、将来の大きな課題として捉えている。

質委員：財政状況が厳しくなるのは見えているのだから、平成 38 年度(2026 年度)近くの話ではなく、もっと早くから対策を考えてほしい。

答事務局：1 年 1 年の実績を踏まえて、計画の中間時点で将来的な財政収支の検討、見直しを行っていきたい。

意委員：光の街は集中浄化槽があり、下水道に接続すると負担金や料金が現状より高くなるのが予想されるので、住民の理解を得るためにも丁寧な説明をしてほしい。

答事務局：これまで集中浄化槽の地域へ下水道が整備されたことがないことから、負担金や施設の扱い等も含めて今後の大きな課題と捉えている。昨日も下水道建設課長が光の街へ出向き説明に行ったところである。

質委員：資料 2 の 3 ページにある検討区域の評価結果表について、経済性は人口密度に比例すると思うが、比例していないのはなぜか。

答事務局：人口密度だけでなく、管路計画を作成し補助工法の費用等さまざまな費用を加味しているためである。

質委員：下水道普及率が 100%になるのはいつか。

答事務局：現在、伊勢市の汚水処理は、90%を下水道、残り 10%を合併浄化槽で処理することを目標としている。今後は、下水道の有利不利の状況を考慮に入れて全体計画の見直しを進めていき、下水道整備の全体計画面積を下げっていくことで、下水道の普及を進めていきたい。

質委員：下水道整備済み地域の接続率はどれくらいか。

答事務局：整備済みであるおはらい町中心の特定環境保全公共下水道エリアでは 96%、二見町では 95%となっている。100%になっていないのは、水道を閉栓された方や、ごくわずかであるが下水道に理解をいただけていない方もいるためである。戸別啓発を引き続き行い、100%に近づけていけるように努力する。

質委員：資料 3 について、将来的に特定環境保全公共下水道を流域関連伊勢市公共下水道に統合していく考えを示しているが、これを市の資料として掲載したことがあるのか。

答事務局：2 年前に策定した「下水道事業経営戦略」にて統合も視野に入れて、より効率的な方法を検討すると表記したが、今回将来的に統合するという考え方を示した。このことは、先週市議会にも報告済みである。

意委員：宮川流域の処理場は沿岸部にあり、津波被害を受けることも考えられるので、管理の難しさもあるが、リスク分散をしたほうが良いのではないかといいことをよく議論してほしい。

答事務局：宇治中村の処理場は、処理量に限界が近づいており、このまま処理できるかという点についてリスクがある。また五十鈴川を横断する水管橋は、耐震対策をしているが地震のリスクもある。これらを勘案した結果、統合したほうが効果的ではないかと判断した。

しかし、委員の意見は大切な意見であると考えます。水管橋については、中村町側から圧送していること等、構造的に維持管理が大変な部分もある。これまで内部でも十分協議してきた件であり、三重県との協議も進んできたことから、

今回このような表現をしたところである。統合の時期については、経済性等委員の意見を考慮して十分検討していきたいと考えている。

質委員：資料3の14ページにある指標について、接続率、有収率、汚水処理区域整備率の算出方法表記部分は間違っていないか。また、接続率については、下1ケタが合わないかと思うので見直してほしい。

答事務局：整理して、次回示したい。

意委員：第5期計画の雨水対策について、記述が少ないように感じる。河川の管轄が区域によって異なり難しいところであるが、市としてこの区域はどこと協議をするか等表記を増やしてほしい。

答事務局：第5期計画は、下水道の認可を得るために下水道として第5期で実施できる事業の計画を記載するものであり、雨水計画については、勢田川流域等浸水対策実行計画の短期計画実施区域外の記述が難しいことをご理解いただきたい。また、実行計画の「等」には宮川左岸も含める意味を込めており、取組状況として現状表記の出来る部分を記載した。計画を作って終わりではなく、進捗管理をしていくことで表記を大きくしていくもので、現状では詳細な記載ができない段階での実行計画の策定であるということで、ご理解いただきたい。

意委員：見る方にとっては、汁谷川のみ記述だと、とられかねないので、左岸のことも考えていることが分かるような記載を検討してほしい。

意委員：菱川付近に住んでおり、台風第21号の際には浸水被害があったが、小俣町時代ではもっと多く雨が降った時にも被害は特に無かった。台風第21号では、排水機場が機能していなかったこともあり、被害の無かった小俣町時代の管理方法等を調査して今後活かしてほしい。

答事務局：河川の管理は都市整備部が行っており、この話はしっかり伝えさせていただいて、市として対応していきたい。

質委員：企業債残高は増える一方であるが、企業債利息が減っていくのはなぜか。

答事務局：利息利率が高い企業債の償還が終了し、現在の利率は低いものとなっているため、企業債残高は増えるが、企業債利息は下がることになっている。

## ○その他

- ・事務局より今後のスケジュールを提示。

上記のとおり会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 30 年 11 月 27 日

議 長 \_\_\_\_\_ 印

署 名 委 員 \_\_\_\_\_ 印

署 名 委 員 \_\_\_\_\_ 印